

平成29年度第1回宗像市介護保険運営協議会 議事録

期 日:平成29年6月1日(木)
時 間:午後6時30分～午後7時30分
会 場:宗像市役所 202 会議室
(北館2階)

<出席者>

【委員】

伊規須委員、江頭委員、大林委員、岡山委員【副会長】、奥田委員、小林委員、坂元委員、西崎委員、
長谷川委員、飛鷹委員、丸山委員、三好委員、山下委員、吉田晴委員、吉田道委員【会長】

【事務局】

篠原健康福祉部長、中村保険医療担当部長、恵谷健康課長、嶋田介護保険課長、衣笠高齢者支援課長、
下垣地域包括支援センター所長、有吉健康推進係長、萩野健康推進係長、長濱介護保険係長、安川介護
保険係長、栗田介護認定係長、副田高齢者サービス係長、高宮介護予防係長、山口地域包括支援係長、
西村介護保険係企画主査、豊福地域包括支援係企画主査、今橋吉武・赤間・赤間西地域包括支援センタ
ー管理者

<会議次第>

1 開会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 報告事項

- 健康福祉部の機構改編及び人事異動について 【資料1】
- 第6期計画期間中の介護保険事業の実績報告について
 - ・1号被保険者数、要介護（支援）認定者数の推移 【資料2】
 - ・介護給付、予防給付の実績 【資料3】
 - ・地域支援事業の実績 【資料4】
 - 【資料5】
 - 【資料6】
 - ・介護保険事業の財政状況 【資料7】
 - ・第1号被保険者保険料の状況 【資料8】
- 指定地域密着型サービス事業所の指定更新について 【資料9】
※地域密着型サービス部会委員については部会【資料1】と兼用
- 高齢者生活実態調査等の進捗状況について 【資料10】

4 その他

5 閉会

1. 開会

【事務局】

皆さんこんばんは。ちょうど定刻となりました。皆さんお揃いということで、早速はじめさせていただきたいと思います。全員出席、15名で会議は成立しております。資料の確認ですが、あらかじめお送りしておりました資料1から10まで、本日配布資料はございません。本日は29年度第1回ということで、議事録署名人は、名簿順で坂元委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。それでは、平成29年度第1回宗像市介護保険運営協議会を開催したいと思います。

2. 会長挨拶

【事務局】

では、会長のあいさつをお願いします。

【会長】

皆さんこんばんは。6月1日のあいさつとしては不適切なのかもしれないですけど、暑い毎日が続いておりますね。私きょうは、昼からの産業医の健康面談とか衛生委員会とか、あと老人ホームの入所判定委員会とか、この市役所が何でこんなに暑いのか、腹が立っておりましたが、部屋によってはですね、個別のクーラーがついているところがあって、涼しくしていただいたところもあるんですけども、面談するあの小さな相談室というのがですね、換気扇だけついておまして、扇風機だけ用意していただいて、ちょっと時間があつたものから、涼を求めて、車でその辺を徘徊しておりました。本日は絶好のホタル観賞の日であると思っております。お手元に水分補給のお茶も用意されておりますので、是非途中で水分補給しながら、最後まで御審議いただきたいと思います。よろしくお願いします。

3. 議題

【会長】

では、議題のほうに移らせていただきます。報告事項です。本日の議題は、報告事項が4項目ございます。

(1)報告事項

○健康福祉部の機構改編及び人事異動について

【会長】

まず一つ目、健康福祉部の機構改編及び人事異動について、事務局の方からお願いいたします。

<事務局説明>

【会長】

ありがとうございました。代表者のあいさつがあるんですね。

【事務局】

組織も変わっております。昨年度までは、地域包括支援センターの中にございました介護予防係、こちらが隣の高齢者支援課の直下に異動しております。では、異動した者を代表しまして、新たに保険医療担当部長に就任いたしました中村から一言あいさつをさせていただきます。

<中村保険医療担当部長あいさつ>

【会長】

継続してなられる職員の方、それから新しく異動なってきた職員の方々、市民のために一生懸命頑張っていたきたいと思えますし、中学の同級生とかですね、高校の先輩の顔がちらほら見えてやりやすいような、やりにくいような感じもいたします。

○第6期計画期間中の介護保険事業の実績報告について

【会長】

それでは、2点目の事項です。第6期計画期間中の介護保険事業の実績報告について、事務局の方から報告をお願いいたします。

<事務局説明>

【会長】

盛りだくさんの説明は、終わったようですけども、第1号被保険者数、要介護支援認定者数の推移、介護給付、予防給付の実績、地域支援事業の実績、それから介護保険事業の財政状況、第1号被保険者保険料の状況という説明がなされました。どなたか御質問、御意見ありませんでしょうか。

【委員】

全部でしょうか。

【会長】

分けたほうがいいですね。それでは最初の第1号被保険者数、要介護支援認定者数の推移と、それから介護給付、予防給付の実績のところでお質問、御意見という形でお受けしたいと思います。はい、どうぞ。

【委員】

計画実績比較の介護給付のところでお伺いしたいことがありました。それはですね、地域密着型のサービスの利用実績があまりかんばしくないという状況で、次の29年度は、あまり利用しなかったところではあるけれども、28年度の計画と同様に、計画をしておられるというか、むしろ増額しておられるので、地域密着型のサービスを利用していただくための方策というか、そういうのは考えておられるのでしょうか。自然にほっといても、何か利用できるというものではないんじゃないかなというふうに思うんですけども、いかがですか。

【会長】

お願い致します。

【事務局】

計画値よりも伸びてない一つの要因としましては、まず、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所を、第6期中に整備して給付費が伸びるんじゃないかという予測をしておりましたけれども、実際のところこのサービスについては、先ほど説明しましたように、応募がなかったという状況で、今年に入りまして、いくつかの事業所をまわって、状況とかもお伺いしているところなんですけども、なかなかやっぱり事業者さんにとっても、この事業、サービス自体がまだよく見えない。本当に利用の見込みがあるのかとか、利用者がいるのかとか、その辺が見込めないというところで、ちょっと躊躇している部分はあるようです。これについてはサービスの内容について、再度ケアマネさんですとか、事業所の方に周知して、必要性があるのかどうかも含めてですね、多分あるとは思いますが、なかなかそのサービスの導入まで結びついていないので、その辺を説明していきながら、事業所の誘致ですとか、サービスの導入につなげていきたいとは考えております。その他の事業については、認知症対応型共同生活介護、こちらが今年の5月に開設がずれ込んだ関係もありまして、9床を5月に開設しておりますが、そちらが見込みでも28年度に整備する予定であったのが、29年度にずれ込んだというところで給付費が大きく伸びなかったという要因はあるかと思えます。ただ、それ以外のサービスについては、計画値は下回っているとはいえ、利用者の状況としては、以前ほど伸びていない、という状況でもなくて、引き続き、こういった小規模多機能であるとか、地域密着型サービスについて、周知しながらですね、サービスを導入していきたいと思っております。

あと、追加なんですけども、資料3の1枚目をごらんいただきますと、先ほど説明の中でも少し触れましたけれども、もともと居宅サービスの一つであります通所介護、これの小規模の部分が、地域密着型に移行するというところで、3年前に私が、じゃあどれくらい移るのかという推計作業をいたしました。その根拠となる数字としまして、市内の通所介護事業所の密着事業所に移行するであろう小規模の割合が、給付費上でどれくらい占めているのかという集計をいたしまして、その当時、43.5%、密着の方に移るのではないかなというような数字が出ておりましたので、それをもとに推計して計画値を掲げたところでありました。実際ふたをあけてみますと28年4月から移行した事業所の給付費ベースの割合が24.6%ということで、おおむね半分ですね。この見込み誤りと申しますか、推計違いが、この地域密着型サービスの計画値に対する実績比というものの押し下げている一番大きな要因であると思えますので、委員御心配の密着サービスになかなか利用が結びついていないんじゃないかっていう現状は、今のところそこまではないかと思っております。

【会長】

よろしいですか。ほかにどなたかいらっしゃいませんか。そうしましたら私からちょっと。今、地域密着型サービスのところで、定期巡回随時対応型訪問介護看護、なかなか手上げをする事業所がないということ。福津市の方で、たしか1事業所手上げをなさっています。実際福津も、旧津屋崎町と旧福岡町とが合併してきているところで、かなり広範囲にわたるところで事業展開しなきゃいけないということがあると思いますけども、実際、今やり始めたばかりなんで、実績等はあまり情報としてないかもしれないですけど、何かお聞きになっているかどうかということと、それから、宗像市でやっぱり、この事業所を公募しても、大島・地島も含んで考えた場合に、一地域としてすべてをということだとかなりハードルが高いと思いますから、その辺の方向はどういうふうに、今後、考え、かつ、その事業所が手上げをするような状況を見込んでおられるのか、教えていただけますか。

【事務局】

まず福津市で実際に事業者がこの事業を3月に立ち上げておまして、先日私どももヒアリングさせていただき状況を伺いました。実際のところやはりこのサービス自体の理解がなかなか進んでいないところもあって、慎重に導入を進めているという話を伺いました。決して随時対応だからといって、いつでも対応するよきなサービスではなくて、やはりその必要性に応じて定期巡回をするんだという、その基本を押さえながら一つ一つ進めているという状況をお伺いしました。実際には一つのある地区の利用者がかなり多く、そこに定期的にまわることができて、効率的にホームヘルパーさんがまわれるという点では、人員のですね、必ず20分以上かけなくてはいけないということでもなく、5分、5分という時間でも巡回にまわれるので、そういった意味で人的にもですね、非常に効率的にまわれるという話を伺っております。ただやはり課題としては、夜間の対応、オペレーター対応ですとか、あと、サービスの理解、その辺が課題として上げられたので、そう拙速にこのサービスを進めては、逆に、使いにくいとか、便利なサービスになりすぎて人が集まらない、やみくもに給付費が上がるというようなサービスになりかねないので、慎重に進めるべきかな、という認識を持ちました。今後市内全域で誘致するのか、ある特定の地域だけ限定してなのか、結論は出ておりませんが、検討していくべきところではございます。

【会長】

ありがとうございました。ほかにどなたか、御質問、御意見ございませんでしょうか。そうしましたら、次の地域支援事業の実績について、どなたか御質問、御意見ございませんか。はい、どうぞ。

【委員】

資料4の地域包括支援センターの事業のところで、地域ケア会議について質問させてください。地域ケア会議は、事務局より御説明されたように、その中から地域の課題を抽出して、政策形成に生かすということが本来の目的で、今回、10の6の一番下のところですね、個別課題の解決会議については98回も、実施されているんですけども、政策決定会議については1回ということになっておられます。たしかに個別課題の解決というのは、すごく大事な問題ではあるんですけども、地域ケア会議を開催し始めてから随分時間もたち、今後も地域ケア会議を開催していくということであれば、宗像市内の各地区でさまざまなやっぱり地域の課題っていうのがあると思うんですね。それに合わせて、できれば各コミュニティの健康福祉部会との協力関係において、地域包括ケアに生かしていただくということが必要じゃないかなっていうふうに考えます。それでちょっと長くなって申しわけないんですけど、現在までのところで見えている、つまり地域ケア会議を通して見えてきた地域の課題っていうか、各地域のですね、課題に、どのようなものがあるのかっていうのは、ぜひ教えていただければと思います。よろしくお願いします。

【会長】

よろしくお願いします。

【事務局】

宗像市には日常生活圏域6カ所ございます。地域ごとですね、いろんな課題がございまして、特に、吉武地区等につきましては、交通弱者の問題とかですね、また買い物支援、全体的にいえませんが、買い物支援につきましては、どこの地域でもありますし、それからごみの収集ですね。これにつきましては今年の3月に報告させていただいたと思いますけれども、政策形成会議におきまして、いわゆるふれあい収集という形でごみの収集も今始まっております。やはり今一番大きなところではいわゆる交通弱者の問題、買い物支援の問題、それから宗像市は特に坂道等が多くございますので、高齢者の方が買い物に行ったときにちょっとしたベンチがほしいとかですね、そういった問題もあります。また、特に先ほど言いました交通関係につきましては、玄海地区がですね、いわゆる公共交通、それからバスのステップの高さとか、そういったいろんな問題が今出てお

ります。大きなところでいくと大体そういうふうなところになりますけども、そういったところにつきまして、私ども政策形成会議、いわゆる役所の中で横断的に、各課が出てきまして、これを検討するというなことを今行っていて、昨年、先ほど申し上げました1回ですけども、今、年だいたい2回ぐらい、実施計画等に合わせて開催する予定にしております。

【会長】

よろしいですか。

【委員】

すいません。ぜひお願いなんですけれども、各コミュニティの各地区の健康福祉部会と、ぜひ、そういう情報交換をされてですね、健康福祉部会も巻き込んで、それらの課題の解決っていうか、そういうところに努力していただければということが希望としてお願いです。それとあと社会福祉法人が今年4月からの法改正で、公益事業、地域貢献をすごくしなければならなくなっていますので、社会福祉法人との関係づくりっていうか、そういったところも含めて、地域の環境整備に努めていただければというふうに思います。

【会長】

はい、ありがとうございました。ほかにどなたか御質問は。どうぞ。

【委員】

9ページですね、高齢者福祉事業等というところの社会参加の促進というところですよ。いろんな取り組みをされております。まず、シルバー人材センターの支援事業やら、シニアクラブの支援事業、これらについては順調に活動されているんじゃないかなと思うんですけど、その中に世代間交流支え合い事業というのがありますよね。これは23年ごろから取り組んでいるんですけど、これは私が住んでいる葉山というところで取り組んで、もう6年、今7年目に入って、毎週水曜日と土曜日に一日かけて、いろんな高齢者と子どもたちとの交流事業やっておるんですよね。ずっと年々ですね、それがうまくいくようになりまして、今では子どもたちも、週に2回ほど、1回がだいたい20人前後集まってきて、もちろん高齢者も集まるんですけど、その交流をやって、非常にいい方向にいつているんですけどね、この事業が非常に自分はいいいと思うんですけど、あとに続かないというのがね、なぜだろうかと思ってね、田久が一時期やって、その1年くらいやってそのあとはもう消えているんですかね、これ、ここには実績があがってないんですが、田久は26年ですか、1年間こうやりましたよという実績があがっているけど、そのあとのフォローというのは、そのへんやっているんだろうかと思ってね、心配しているんですよね。どうですか。

【会長】

どうですか。お願いします。

【事務局】

先ほど申しました、平成24年に、私この年に担当の課におりまして、お世話になりました。ここに掲載させていただいているのは、先ほどおっしゃったとおり、この年度だけ活動をやっていらっしゃったという表記ではございませんで、行政からの補助を、この年度させていただいたということで表記をさせていただいているというふうに考えます。田久についても引き続き活動はやっていらっしゃるというふうには、私聞いておりますが、吉武地区も含めてですね、広がりを見せつつも、なかなかその定着しないという状況はあろうかと思えます。ただ、これは一つの世代間交流支え合い事業という形で葉山地区がモデルになりましてですね、このスタイルではなくて、地区地区それぞれが、その特性を生かした形での、若干違った活動に展開していらっしゃる、こういった場合も多かろうと考えるところであります。ただ、委員がおっしゃるとおり、この活動というのは今後も含めてですね、非常に重要かつ必要なものであるという認識はございますので、やはりそのモデルケースとして、いろんな場面でお伝えしながらですね、そこは広がりをもたせていきたいと考えるところでございます。

【委員】

よろしくお願ひしたいと思ひますけど、いろんな事業をやっていただけるのですが、あとのフォローがね、ないんよね。事業が終わったら、もうそれまでというところもあるんですよ。あとのフォローがないんですね。だから今自分たちのところはずっと6年、7年目、6年になりますけどね、その継続性というのはね、やっぱりせつかくやる以上は、まず、当初は3年間ぐらい助成してもらっておりますのでね、そのあとをうまくやっていかないと、お金がむだになってしまいます。そのへんもあとの追跡調査といいますかね、そのへんもやっていかないとね、いけないだろうと思ひますので、そのへんよろしくお願ひしたいと思ひます。

【会長】

ありがとうございました。ほかにございますか。どうぞ。

【委員】

同じ9ページの中にですね、養護老人ホーム入所措置費というところがあって、こちらの人数の方が26年度は42人で、平成28年度は32人と、入られている方がだいぶ減られています。全体としては高齢者の方の数は増えてきているのかなと思うんですけども、何かここで減った理由とかありましたら、教えていただければと思います。

【会長】

はい、どうぞ。

【事務局】

ここで掲げております老人ホーム、いわゆる養護老人ホームの入所の要件と申しますが、例えば経済的な状況でありますとか、特殊な要件に基づくものでございますので、例えば、近年法制化されました自立生活の支援ですとか、いろんな形の生活サポートという形ですね、別の方策でその問題がクリアされてきているという状況もあって、入所者が徐々に減ってきているという状況でございます。

【会長】

よろしいですか。

【委員】

はい。ありがとうございました。

【会長】

ほかにどなたかいらっしゃいますか。せつくなので私の方からすいません。吉武・赤間・赤間西地域包括支援センターの方にちょっとお尋ねしたいことがあるんですが、1月から実質的に活動なさっているわけで、そのときから地域住民の方への普及啓発というか、周知されてこられたと思いますけども、実際、今宗像市は、市で直営でやられているとこと、民間委託が1地域という形でやられていると思いますけども、その辺の周知の何というか認知度の手ごたえみたいな、どう考えられているかっていうことと、それから、地域ケア会議を3月まで毎月1回ずつされているわけですけども、実際の事例の抽出の仕方として、どういうことを基準にされているのかっていうのを教えていただきたいということと、法人在宅部長っていうのは、医師ですか、看護師ですか。その辺を教えてください。

【事務局】

まず1点目の地域へのPRした後の手ごたえっていうところなんですけども、やはりPRしていく毎に、今までは直営のほうから経由して、うちにつながってくるケースが多かったんですが、段々と足を向いて来られる方であったり、もしくは直接うちの方に電話をかけてこられたりする方が増えてきています。徐々に直営のほうから経由してくるということが、当初に比べると少し減ってきたところを見ると、やはり周知化されてきたのかなっていうのは、手ごたえ的には感じております。2点目の、ケア会議の事例の基準というところなんですけども、ケア会議に出す事例というのは、要支援1、2レベルの標準的な方を抽出しています。というのも、困難ケースは、全体の高齢者の中では数パーセントしかいないんですね。ケア会議の目的自体が、よくあるありふれた事例を基準に、それに対して、この方の住んでいる地域の特性を知り、不足する社会資源を抽出するということでは、ケア会議の事例は、ごく当たり前の要支援1、2レベルの方を抽出しています。3点目の在宅部長については、職種としては、看護師です。

【会長】

はい、ありがとうございました。どうも、地域ケア会議、医療職、敬遠されるところがあるんで、ぜひ医療職を入れていただいて、ケア会議を進めていただきたいと思ったんで、ちょっとお尋ねしました。

【事務局】

ありがとうございます。うちも医療系の法人なので、今後もちっといろいろその辺では、法人と考えていきたいなと思っております。

【会長】

そのほか、どなたかいらっしゃいますか。

【委員】

今の件で、ちょっとよろしいでしょうか。

【会長】

はい、どうぞ。

【委員】

包括支援センターが、吉武、赤間、赤間西ということで、3か月じゃなくて、4か月にもうなるんかね。いやもう

5か月。もう大分なりますよね。はじめて、一番バッターですたいね。だから今までの市役所の中の包括と、また向こうに出かけての包括というのは随分変わってきたんだろうと思うんですね。やっぱり地域の方へ、よくPRが非常に盛んに行われておりますのでね、たくさんの相談やら訪問やら、今、されていると思いますけど、今の人員体制等についてですね、何か問題等がないのかどうか。それと、あとに続く、あと5つくらいあるんかいな、そこになんかいろいろアドバイスとかあるんだろうと思います。そのへんのところがあつたらね、このへんはこうしたらとか、困っているようなところがあつたらね、ぜひ聞かせてほしいなと思います。

【会長】

お願いします。屈託のないご意見をお願いします。

【委員】

やはり皆さん、よく知ってもらったほうがね、一番大事な包括支援センターやからね。そのへんちょっと、言える範囲で。

【事務局】

はい、わかりました。まず人員についてなんですけれども、地域包括支援センターの3職種というところが、3,000人から6,000人に3職種を置きなさいということになっております。この地区については、7,122人ということで、この2月のデータでは、6,000人を上回っているという状況ですので、こちらのほうについては、今現在ですね3職種3名と、ケアプランナーが2名というところで、計5名で動かしております。ただ相談件数も徐々に増えてきておりますのと、ここの人口自体も7,000人と増えていますので、今求人をかけている状況です。3職種の、今のところ主任ケアマネジャーを募集かけていますが、なかなか難しい、求人がこないという現状です。これは、主任ケアマネジャーの更新のハードルが上がってきたことが一つの問題なのかなと思っています。ただ、募集をかけているけどなかなか来ない、というのはやはり困るので、3職種、主任ケアマネジャーという枠をはらって、社会福祉士、看護師、いずれの職種でも募集をかけてもらいたいなというところで今法人の方に依頼をかけております。今後できていく事業所に対しての、ということなんですけど、事務作業的なところですね。給付管理は、今まで市役所で事務員さんのほうで、やってもらっていた状況なので大変でした。今、包括支援センターにいる間に、給付管理自体のそのレセプトの流れ等について、しっかりとレクチャーしてもらった方がいいかなと思います。やはり残業で残ってやる仕事は、事務作業になってきますので、そこがなれるまでの間、大変だったかなと思いますので、そこはおられる間にしっかりと研修されたほうがいいです。あとは地域の方については、本当に近くなってきたというのは感じます。今後、協議体であったり、認知症の施策っていうところも入ってきますが、地域の方とも顔つながりができることで、この人に言ったら、ちょっとお願いできるかなみたいな関係性も委託によるものなのかな、やはり地域に近くにできたおかげなのかなっていうところを感じております。

【会長】

ぜひ先行事例として、成功事例を残していただきたいと思いますね。

【事務局】

がんばります。

【会長】

ほかにどなたかいらっしゃいますか。ないようですので、最後の2つですね。介護保険事業の財政状況と、第1号被保険者保険料の状況についての御質問、御意見はないでしょうか。

○指定地域密着型サービス事業所の指定更新について

【会長】

指定地域密着型サービス事業者の指定更新について、お願いいたします。

<事務局説明>

今の報告について、御質問とか御意見ございませんでしょうか。ないようですので、その次の報告事項に移りたいと思います。

○高齢者生活実態調査等の進捗状況について

【会長】

次の項目の高齢者の生活実態調査等の進捗状況について、お願いします。

<事務局説明>

ただ今の報告に対しまして、どなたか御質問、御意見はないでしょうか。ないようですね。

4. その他

【会長】

そのほか、事務局のほうから何かございますか。

【事務局】

皆さん、活発な御意見、どうもありがとうございました。来る第2回の運営協議会でございますけれども、来月7月の下旬あたりを予定しております。正式にはまた御通知差し上げたいと思いますが、内容的には今資料10で御説明いたしました調査、こちらの集計とかの報告、こちらになるかと思っておりますので、どうぞまた御出席のほう、よろしく願いいたします。それでは、会長、閉会のごあいさつをお願いいたします。

5. 閉会

【会長】

皆さんの協力をもちまして、約1時間で会議を終了することができました。いい暗さになってきましたので、寄り道してホテルを見て帰られるなり、すぐ帰って冷たいビールを飲まれるなり、きょうの1日の疲れをとっていただければと思います。本当にどうもありがとうございました。